

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	リベラルアーツ特論2（デジタル人文学）	
科目基礎情報							
科目番号	4CR21			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位： 1		
開設学科	生物応用化学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書は使用せず、適宜資料を配布する。参考書については、各テーマに関連するものを授業内で紹介する。						
担当教員	常木 佳奈						
到達目標							
1. 人文学研究の意義を正しく理解し、先行研究を的確にレビューできる。 2. アーカイブされている文化資源の特性を正しく理解し、既存のアーカイブを的確に批判することができる。あわせて、文学作品や文化に対して、敬意を払って接することができる。 3. 先行研究や既存のアーカイブなどを参考にオリジナルなデジタルヒューマニティーズ（以下、DH）型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	人文学研究の意義を正しく理解し、先行研究を的確にレビューできる。			人文学研究の意義を理解し、先行研究をレビューできる。		人文学研究の意義を理解し、先行研究をレビューできない。	
評価項目2	アーカイブされている文化資源の特性を正しく理解し、既存のアーカイブを的確に批判することができる。			アーカイブされている文化資源の特性を理解し、既存のアーカイブを批判することができる。		アーカイブされている文化資源の特性を理解し、既存のアーカイブを批判することができない。	
評価項目3	先行研究や既存のアーカイブなどを参考にオリジナルなDH型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできる。			先行研究や既存のアーカイブなどを参考にDH型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできる。		先行研究や既存のアーカイブなどを参考にDH型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 4							
教育方法等							
概要	デジタルヒューマニティーズ（以下、DH）とは、さまざまなデジタル技術を用いて文化資源にアプローチするという、文理融合型の学際的な学問分野を指すことばである。本授業では日本の絵画作品（浮世絵・木版口絵）と古典籍を中心に、それらに関連するデータベースを取り上げ、より良いアーカイブの構築に向けて議論を深めていく。授業を通じて、人文学研究の意義を正しく理解し、先行研究や既存のアーカイブを的確にレビュー・批判する力を身に着けるだけでなく、文学作品や文化に対して敬意を払って接する態度を養ってほしい。また、議論やプレゼンテーションを行う際には、自身のコミュニケーション能力の向上に積極的に努めることも期待する。						
授業の進め方・方法	・ 2～3週目には、DH関連の先行研究をレビューする。指定された論文や記事を読み、各自、担当箇所について解説できるよう、準備をしておくこと。 ・ 4～7週目には、浮世絵の特性を学び、アーカイブの方法について考える。指定されたデータベースやWEBサイトをあらかじめ閲覧し、アーカイブされている文化資源の特性などを整理しておくこと。 ・ 8～11週目には、古典籍の特性を学び、アーカイブの方法について考える。指定されたデータベースやWEBサイトをあらかじめ閲覧し、アーカイブされている文化資源の特性などを整理しておくこと。 ・ 12～15週目には、先行研究や既存のアーカイブなどを参考にオリジナルなDH型プロジェクトの企画案を作成し、そのプレゼンテーションを行う。資料作成のための準備時間を授業内に設けるが、時間が不足する場合は各自で準備を進めておくこと。						
注意点	【事前学習】 ・「授業の進め方」参照。詳細については、授業内で指示する。 【成績評価】 ・満点を100点とし、60点以上の者を合格とする。 ・授業への参加度（課題・発言など）70%、最終プレゼンテーション30%を目安として評価する。 ・授業への参加度を考慮し、必要と認めた場合、補充レポートなどを課す。 【その他】 ・提出を課したもの（ワークシートやコミュニケーションペーパーなど）は授業やそのほかの報告書などにおいて匿名で取り上げることがあるので、その点を留意しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション 授業の進め方について DHの歴史、基本的な考え方		DHの歴史と基本的な考え方を理解できる。		
		2週	DH型プロジェクト研究のレビュー①		指定された論文や記事を読み、担当箇所を的確にレビューできる。		
		3週	DH型プロジェクト研究のレビュー②		指定された論文や記事を読み、担当箇所を的確にレビューできる。		
		4週	浮世絵とアーカイブ①（浮世絵を知る）		浮世絵の種類やその役割を学び、浮世絵とは何かを説明できる。		
		5週	浮世絵とアーカイブ②（浮世絵で遊ぶ①）		おもちゃ絵を通して浮世絵を楽しむことができる。		
		6週	浮世絵とアーカイブ③（浮世絵で遊ぶ②）		おもちゃ絵を通して浮世絵を楽しむことができる。		
		7週	浮世絵とアーカイブ④（浮世絵を分析し、アーカイブについて考える）		浮世絵の特性を理解し、アーカイブの方法を考えことができる。既存のアーカイブを批判し、より良いアーカイブに向けて議論を深めることができる。		
		8週	古典籍とアーカイブ①（古典籍を知る）		古典籍の形態的な特徴や内容の種類を学び、古典籍とは何かを説明できる。		

4thQ	9週	古典籍とアーカイブ②（AIを使ってくずし字の読解に挑戦する①）	「くずし字翻刻システム」を使いながら、江戸時代の板本の読解へ前向きに取り組むことができる。
	10週	古典籍とアーカイブ③（AIを使ってくずし字の読解に挑戦する②）	「くずし字翻刻システム」を使いながら、江戸時代の板本の読解へ前向きに取り組むことができる。
	11週	古典籍とアーカイブ④（古典籍を分析し、アーカイブについて考える）	古典籍の特性を理解し、アーカイブの方法を考えことができる。 既存のアーカイブを批判し、より良いアーカイブに向けて議論を深めることができる。
	12週	最終プレゼンテーションの準備①	特定の文化資源を取り巻く背景について整理できる。 その文化資源の特性を正しく理解できる。
	13週	最終プレゼンテーションの準備②	特定の文化資源を取り巻く背景について整理できる。 その文化資源の特性を正しく理解できる。
	14週	受講生によるDH型プロジェクトの企画案発表①	先行研究や既存のアーカイブなどを参考に、オリジナルなDH型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできる。 他者のプレゼンテーションに対して、的確な指摘・質問ができる。
	15週	受講生によるDH型プロジェクトの企画案発表②	先行研究や既存のアーカイブなどを参考に、オリジナルなDH型プロジェクトの企画案を作成し、その内容をプレゼンテーションできる。 他者のプレゼンテーションに対して、的確な指摘・質問ができる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		授業への参加度	最終プレゼンテーション	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		50	30	80	
専門的能力		10	0	10	
分野横断的能力		10	0	10	